

RiCKS特別研究会 第二弾！

日時：2014年10月9日（木）16：30～18：30

場所：立命館大学びわこ・くさつキャンパス

エポック立命21 大会議室（K309 3階）

主催：社会システム研究所アジア社会研究会

共催：コリア研究センター、拠点形成型 R-GIRO 研究プログラム

「オール立命館による学際統合型平和研究拠点」、立命館・今に向き合う会

後援：立命館大学教職員組合

挨拶：金丸裕一（立命館大学経済学部教授）

趣旨説明：勝村誠（立命館大学コリア研究センター長）

報告

中村一成（ジャーナリスト）

「ヘイトスピーチの何が問題なのか—被害実態から考える—」

多田一路（立命館大学法学部教授）

「大学における政治的にセンシティブな問題と学問の自由
—私がしている憲法の授業—」

【趣旨】このたび、恒例の月例研究会をより拡大、深化させた特別研究会を開催することになった背景には、今年の1月に立命館大学のある講義をめぐる、受講生と思われる人物が事実をねじ曲げたツイートをしたことをきっかけに、担当教員が猛烈なネット攻撃の嵐にさらされた事件のことがあります。大学は1月15日にこの事件についての声明文を発表しましたが、その内容は、事実関係の確認結果とそれに対する対処の報告であり、併せて「結果として」「誤解を与え」たことは「大学として不適切であった」として講師を「指導」したうえで、社会的に「お詫び」をしてしまいました。また、同声明では、ネット空間における攻撃によって引き起こされた問題については一言も触れておらず、私たちはこの声明書によって立命館は大学としての矜持を自ら傷つけたと考えています。大学も被害者であり、担当教員と授業を守る立場にあったにもかかわらず、目前の「火消し」をするために、謝った素振りをしたのでした。自民党議員による文部科学省に対する問い合わせもその背後にありました。

その後、この大学の声明文の問題性に危機意識を持つ学内教員9人が「立命館大学に声明文の撤回とヘイトスピーチへの毅然たる対応を求める要請書」への賛同署名を集めて、要請書を学長に送ったうえで、2回の総長との懇談会を行いました。総長は、私たちが求める「早急に声明書を撤回し、改めて毅然とした態度を表明すること」については、決断に至っていませんが、私たちの要請の「学生とともにレイシズムやヘイトスピーチについて深く考える教育研究に取り組むことを求める」とした点については、「強く同意する」、「具体的に取り組んでいく」と述べています。

このような状況の下で、若手有志のみなさんが開催された師岡康子弁護士の講演会に続き、コリア研究センターとしては、学内機関としていち早くヘイトスピーチやレイシズムについて考える機会を持ちたいと思い、5月28日に特別研究会を開催しました。そこでは、著書『ルポ 京都朝鮮学校襲撃事件 <ヘイトクライム>に抗して』（岩波書店、2014年）で悪質なヘイトクライムによる被害者の心理的傷がいかに深刻かをていねいに描いた中村一成氏に、ヘイトスピーチ／ヘイトクライムの問題について語っていただきました。また、元容鎮氏に、韓国における暴力的・排他的言説の問題を、脱北者に対するヘイトスピーチについて、多田一路氏には、憲法の授業での事例を通じて、大学の教育現場における政治的にセンシティブな問題と学問の自由について問題提起をしていただきました。

本研究会は5月28日の特別研究会に次ぐ第二弾として、中村氏と多田氏をBKCキャンパスにお招きし、議論をさらに深めるために企画したものです。

ぜひとも多くの方々にお越しいただき、活発な議論を通じて現在の問題を共有したいと思っておりますので、ご参加よろしくお願いたします。

立命館大学コリア研究センター

〒603-8577 京都市北区等持院北町56-1 Tel:075-466-3264 Fax:075-466-3247

Email:korea@st.ritsumeit.ac.jp HP:http://ricks2005.com

「ヘイトスピーチとレイシズムを問う」
「日本の社会と教育現場の有り方から」